

# 令和5年度の斑点米カメムシ類の発生状況

令和5年度の発生予察調査における斑点米カメムシ類の本田発生量は、7月下旬以降はやや多い状況となった。令和5年8月1日に病害虫発生予察注意報第6号を発出し、注意喚起した。

## 1 調査時期別の本田及び畦畔雑草の発生量

県内47地点94ほ場におけるすくい取り調査の結果を表1に示した。本田における捕獲虫数は7月下旬から増加し、以降はやや多で推移した。畦畔雑草における捕獲数は、7月下旬はやや多かったが、期間全体を通して見るとやや少ない傾向であった。

表1 すくい取り調査における斑点米カメムシ類の1ほ場あたりの平均捕獲虫数（頭）

調査時期	本田すくい取り調査			畦畔雑草すくい取り調査		
	発生量	本年	平年	発生量	本年	平年
6月下旬	－	－	－	少	4.52	16.72
7月上旬	並	0.85	0.93	並	12.67	15.62
7月下旬	やや多	3.84	2.34	やや多	7.09	5.45
8月上旬	やや多	3.60	2.63	やや少	2.44	5.44
8月下旬	やや多	6.47	3.46	やや少	2.79	4.89
9月下旬	やや多	5.86	3.19	－	－	－

## 2 斑点米カメムシ類の種別の発生量

本田すくい取り調査における斑点米カメムシ類を種別に見ると、7月上旬はカスミカメ類が最も多かったが、7月下旬以降はイネカメムシが最も多くなった。特に7月下旬では、過去10年間の結果を見ると令和4年まではカスミカメ類が主要種であったが、イネカメムシは近年増加傾向にあり、令和5年はイネカメムシの割合がカスミカメ類より多くなった（表2）。

畦畔雑草すくい取り調査における斑点米カメムシ類の主要種は、調査期間全体を通してカスミカメ類であった（表略）。

表2 7月下旬における斑点米カメムシ類の本田すくい取り調査結果

種類	発生量	1ほ場あたり平均捕獲虫数（頭）		
		本年	平年	前年
ホソハリカメムシ	やや多	0.44	0.34	0.26
クモヘリカメムシ	多	0.77	0.26	0.62
シラホシカメムシ類	並	0.01	0.05	0.07
イネカメムシ	やや多	1.36	0.24	1.43
カスミカメ類	並	1.11	1.33	1.93
ホソナガカメムシ類	並	0.03	0.05	0.05
ミナミアオカメムシ	やや多	0.13	0.07	0.23
合計	やや多	3.84	2.34	4.60

注) 下線は種別の発生量の内訳のうち最も多かったものを示す。